

令和2年を振り返って！

今月は営業部 亀田が担当します。

今年は世界的に新型コロナウイルスの年でしたね。オリンピックも延期され来年はやるのでしょうか？

なんか世界が変わっていく感じがします。何か明るいニュースはないかと考えましたが、、、あまり思いつか無いので、緊急SOS池の水ぜんぶ抜く大作戦の裏話を少しだけします。



お陰様で池の水ぜんぶ抜くも5年目に突入しました。

「池の水ぜんぶ抜く」シリーズの新潟の池の現場の本番までの段取りをご紹介します。

まず、制作会社から電話があります。

「明日ロケハン（現場調査）で新潟に行けますか？」

明日で、しかも新潟！！ こんな急なこともだいたい慣れてきましたが正直まだ焦ります。

それから行く池を調べて車で行くか電車で行けるかどうかを調べます。

遠い場所は電車で行きたいのですが、池の深さや泥を調べるにはそれなりの道具も必要となり車で向かいます。（これを日帰りで行うので家に帰るのは夜遅くなります👉）

池に着いたら、池の深さ泥の深さ排水方法、魚の量やわき水がどのくらい入っているかを調べ、そこから何日で水が抜けるか、ポンプやホースをどのくらいの物を持って行くかを決めます。

制作スタッフも沢山池を見ているので私が4日で抜きますと言うと、では3日で抜いて下さいと言ってきます。なぜかという制作費の関係で安くするには時短なので！

池が決まると、遠いところは泊りで行きますが良いホテルもあればボロボロのお化け屋敷みたいなホテルもあります。その時は水抜き作業をやめて帰りたくなります。

そして本番！

朝から大勢のスタッフさんが来て現場は戦場。まだ抜ききれてない現場で11時半までに池の水ぜんぶを抜いて下さいとか言われるといつも焦ります！

本番スタートするとみんな大緊張です。私もちゃんと台本のセリフがあり今でも時々頭が真っ白になって、言葉が出てこない時もあり、とんちんかん話も多々あるので編集でかなりカットされています（やっぱり素人ですから）。

そして本番が終わると（物撮り）と言って池の魚を一匹ずつ撮影します。それが一時間半

ぐらいかかり、撮影が終わってから道具を撤収して現地を出発するのがだいたい19時ごろで東京に帰ってくるのが午前0時ぐらい。帰ってきたらみんなへトへトです！

このようにして緊急SOS池の水ぜんぶ抜く大作戦は作られています

次回放送を視聴していただくときは、けっこう大変なんだなあと思って見てくださいね。

